

# 郷土文化財紹介

## 埋蔵文化財シリーズ

### ＜門垣戸遺跡＞

門垣戸遺跡は坂下大門地区にあって、坂下で初めて大集落で暮らした人々の記録を留める遺跡です。

以前より地区の住人等が田畑から石皿などを採集していました。昭和50(1975)年県道の改良工事に伴う調査があり、6基の竪穴住居址を中心に縄文早期から後期にわたる大きな集落の一部が発掘されました。その内容は「門垣外遺跡発掘調査報告書(坂下町教育委員会)」としてまとめられています。

発掘された土器より早期(約1万年前)については関東地方、中期(約5千年前)は長野県の人ヶ岳地方に多くみられる型式のものを中心に関東や東海地方と思われるものも確認されています。



↑ 曾利 I 式対比  
第2住居跡出土  
(縄文中期) →



← 咲畑式土器  
第2住居跡出土  
(縄文中期)

地形は川上川へそそぐ小川のほとりに広がる平地で、椈の湖同様川上川などで小魚、森ではドングリなどの木の実を主食としていたと考えられます。人口の増加で小規模

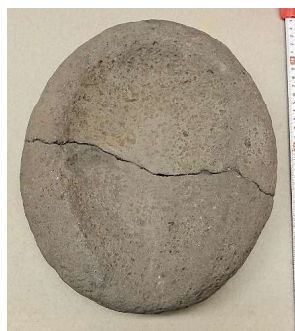
な栽培も行われていたと思われ、採取した木の実などを石皿で砕いて保存食も作られていたのではないのでしょうか。



↑ 漁労用具  
第2住居跡出土



↑ 保存用埋壺  
加曾利E式  
(縄文中期)



← 石皿(白)  
第2住居跡出土  
(縄文中期)

特徴的な出土品として祭祀に使われたと思われる土偶、土製円板、彩色土器などがあり、集落のリーダーが祈祷などを行い人々を率いたものと推測されます。また、首飾りなどの装飾品も発見されています。



↑ 土偶



↑ 彩色土器片



↑ 目的不明の土製円盤など



石器類も多く出土しました。



↑石錐(いしきり)各種

↑装飾品



←石刀1



石刀2 →



↑石鏃各種

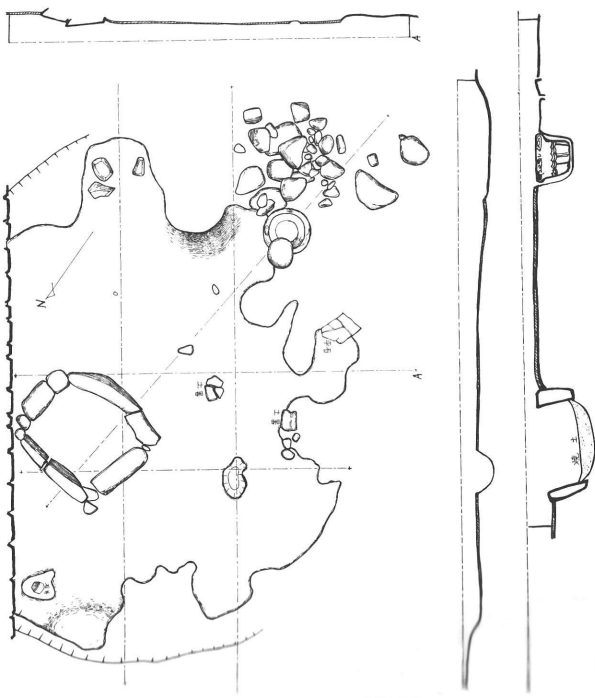


←磨製石斧



→石棒

←門垣外遺跡第2号住居跡平面図



↓第2号住居跡写真

